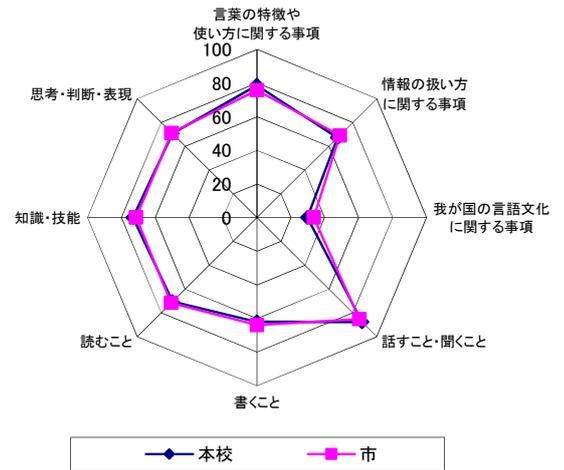


宇都宮市立瑞穂台小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	78.7	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	67.3	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	29.7	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	87.8	85.5	86.5
	書くこと	62.0	63.9	65.8
	読むこと	70.6	71.6	69.5
観点別	知識・技能	73.2	71.3	72.9
	思考・判断・表現	70.6	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

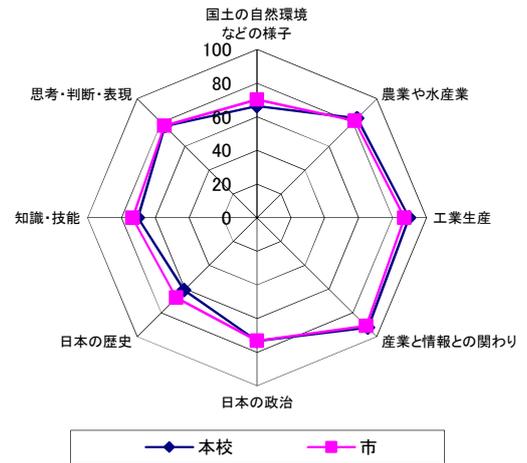
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均を上回る(+2.9ポイント) ○設問で見ると、漢字の読みの正答率は高い。 ○三字の熟語の成り立ちについて問う問題では、市の平均より大きく上回っている(+7.1ポイント)。 ●漢字の書きの正答率は低いものもあった。 ●敬語について理解し正しく使う問題では、市の平均より大きく下回る(-6.8ポイント)。 ●文と文の接続の関係についての問題では、市の平均よりは上回っているものの、47.5ポイントと正答率は低い。	・漢字の読み書きを学習する際、漢字の意味や使い方を意識しながら練習させる。 ・敬語を正しく使い分けられるように、授業だけでなく日々の生活の中でも指導していく。 ・特に書くことの単元で、接続詞を使って文と文を分かりやすく組み立てて作文をする指導をしていく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は市の平均をやや下回る(-1.8ポイント)。 ●原因と結果など情報と情報との関係を理解している児童が、市と同程度いる。	・原因と結果など情報と情報との関係を正しく捉えられるように指導し、情報を正しく読み取ったりしたことを簡潔に表現する場を設けていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均を下回る。(-3.8ポイント) ●和語・漢語を理解することに課題がある。	・語句の由来に関心をもたせ、和語漢語について理解できるように指導していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を上回る(+2.3ポイント)。 ○話の内容を捉えたり、意図に応じて質問を工夫する問題では、市の平均正答率をやや上回っており、良好な状況が見られる。 ●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題の正答率は、74.3ポイントで、市や全国の平均正答率を上回っているものの正答率は低い。	・話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができるように、必要なことを記録したり、質問したりしながら聞く機会を設ける。
書くこと	平均正答率は市の平均をやや下回る(-1.9ポイント)。 ●目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にする問題の正答率が市の平均を下回る。(-6.7ポイント) ●予想される反論とそれに対する意見を書く問題の平均正答率が低い。(50.5ポイント)	・文の構成や意図を考える機会を設ける。 ・各教科で自分の考えをもち、その意見に反論された場合も、自分の意見を論理的に述べられるような具体的な場面を設ける。
読むこと	平均正答率は、市の平均をやや下回る。(-1.0ポイント) ○第2、3問目といった発展的な問題の正答率は、市と比べて同程度か上回っている。 ●物語や説明文の第1問目の正答率が低い。	・基本的な問題の正答率が低いため、言葉集めをしたり、辞書を使って語句調べを行うなどして、語彙力を高める。 ・簡単な文章読解に何度も取り組ませ、読み取りのこつをつかめるようにする。 ・初めての文章も読みとることができるよう、日々の音読指導に力を入れていく。

宇都宮市立瑞穂台小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	66.3	70.3	66.4
	農業や水産業	83.5	81.6	75.3
	工業生産	89.8	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	92.6	91.0	81.3
	日本の政治	73.3	73.2	75.3
	日本の歴史	60.9	67.4	68.5
観点別	知識・技能	70.3	73.5	72.5
	思考・判断・表現	76.9	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

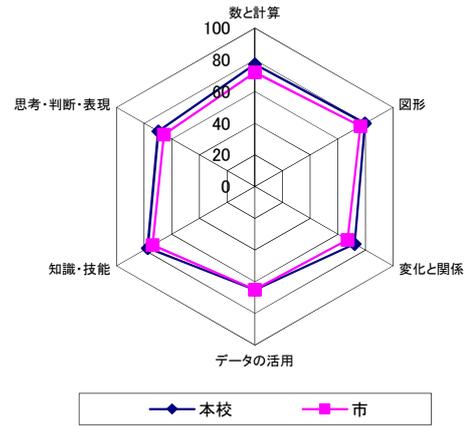
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は市の平均を下回る(-4.0ポイント)。 ●季節風について答える問題では10.0ポイント下回っている。 ○赤道についての問題の平均正答率は市の平均と同程度である。	・風の方位と乾湿について、授業などにおいて地図帳を積極的に活用し、地形と合わせて理解を深める指導をしていく。
農業や水産業	平均正答率は市の平均をやや上回る(+1.9ポイント)。 ○米の品種改良の目的について理解している。	・総合的な学習の時間を通して、米作りについて実践的に学んでいることと関連付けて理解を深めていきたい。また日本の食糧生産についての興味・関心を高めていきたい。
工業生産	平均正答率は市の平均を上回る(+2.8ポイント)。 ○グラフの読み取り問題の正答率が高い。	・教科書等の資料やグラフを活用しながら、資料を正しく読み取ることができるよう指導していく。
産業と情報との関わり	平均正答率は市の平均をやや上回る(+1.6ポイント)。 ○情報を得るだけでなく、活用して経営にいかしていることを問う問題の正答率が高い。 ●人工林の役割について問われる問題の正答率は市の平均より下回っている。	・森林を守るための林業役割、天然林の保存と人工林をつくる目的について区別して指導していく。
日本の政治	平均正答率は市の平均と同程度である。(+0.1ポイント)。 ○法律ができるまでの流れについて問う問題の正答率が高い。	・日ごろから社会情勢に興味をもつように働きかけ、知識として定着できるような指導をしている。
日本の歴史	平均正答率は市の平均を大きく下回る(-6.5ポイント)。 ○織田信長の業績について問う問題の正答率が高い。 ●縄文時代～平安時代について問う問題の正答率が低い。	・それぞれの人物がどのようなことをしたのか、深く関わる人物や実績と関連付けて指導していく。 ・米作りがもたらした変化について順を追って指導していく。

宇都宮市立瑞穂台小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	77.2	72.1	74.6
	図形	79.8	76.5	76.1
	変化と関係	72.3	67.1	59.7
	データの活用	65.1	65.0	64.5
観点別	知識・技能	77.5	73.8	74.7
	思考・判断・表現	69.7	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

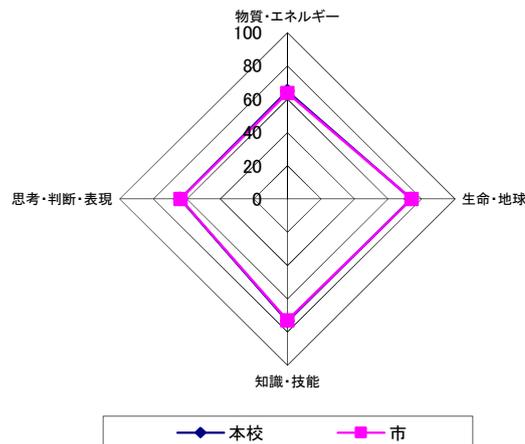
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は市平均を大きく上回る(+5.1ポイント)。 ○少数や分数の計算の問題では、ほとんどの問題で市の平均を上回った。 ○2つの文字を使ってあらわされた式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題では、市の平均正答率より高い。(+10.0ポイント) ●比較量、基準量が分数の場合において、比較量が基準量の何倍になるかを求める式を選ぶ問題の正答率は、51.5%と低い。</p>	<p>・比較量、基準量が分数の場合において、比較量が基準量の何倍になるかを求める際に、基準量と比較量をそれぞれ明確に捉えられるように繰り返し指導をしていく。</p>
図形	<p>正答率は市平均を上回る(+3.3ポイント)。 ○三角形の外角の大きさを求める問題の正答率は、市平均を大きく上回る(+10.8ポイント)。 ○正多角形の中から点対称な図形を選ぶ問題の正答率は、市平均を大きく上回る(+7.9ポイント)。</p>	<p>・公式に当てはめて計算するだけでなく、式の意味を説明させたり、公式を活用する問題を取り入れたりして引き続き指導していく。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は市平均を大きく上回る(+5.2ポイント)。 ○基準量と割合から比較量を求める問題では、市の平均を9.6ポイント上回った。</p>	<p>・公式に当てはめて計算するだけでなく、式の意味を説明させたり、公式を活用する問題を取り入れたりして引き続き指導していく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は市の平均と同程度である。(+0.1ポイント)。 ○値に0がある分離量の平均を求める問題では、市の平均を上回った。(+4.2ポイント) ●度数分布表を完成させる問題の正答率は市の平均をやや下回った。(-1.5ポイント)</p>	<p>・児童の言葉でまとめを書かせるなど、算数用語の定着を図る。 ・計算をするだけでなく、問題の概要を捉えるために公式を活用するなど、生活に密着する問題を意図的に取り入れていく。</p>

宇都宮市立瑞穂台小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	64.8	63.8	61.6
	生命・地球	73.8	74.1	73.3
観点別	知識・技能	73.4	73.0	71.3
	思考・判断・表現	63.9	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は市の平均と。(+1.0ポイント) ○「水溶液の性質」の単元では、市の平均正答率よりも大きく上回っている。(+6.1ポイント) ●「物のとけ方」では、市の平均正答率よりも大きく下回っている。(−5.5ポイント)	・基礎事項や重要語句を身に付けるような反復練習を行う。 ・観察や実験、器具の使用の機会を増やし、実感を伴った理解が深まるよう指導する。 ・結果を表やグラフでまとめ、そこから読み取ったことを考察として文章を書く機会を確保することにより、事実から考えたことを表現できるようにする。
生命・地球	平均正答率は市の平均と同程度。(−0.3ポイント) ○「月と太陽」の単元では、市の平均正答率よりも大きく上回っている。(+6.7ポイント) ●「流れる水のはたらき」の単元では、市の平均正答率よりも大きく下回っている。(−5.0ポイント)	・基礎事項や重要語句を身に付けるような反復練習を行う。 ・調べたいことを明確にし、変える条件と変えない条件を確認した上で実験に取り組むよう指導する。 ・実験や観察の際には、予想や仮説をしっかりと立てて、得られる結果を推測することができるようにする。 ・自分の言葉で現象や理由を説明できるよう、考察の時間を十分に取ながら指導する。

宇都宮市立瑞穂台小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・協働的に学び合える学習態度や習慣の形成を図る指導・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習のきまり」を活用し、基礎的基本的な学習習慣の育成に努める。 ・各教科における一人一台端末の効果的な活用。 ・「家庭学習の手引き」の活用や、家庭学習強化習慣を設け家庭学習の習慣化していく。 	「宿題はきちんとやり、期日までに提出している」や「授業に必要な学習用具は忘れずに持ってきている」の質問は、学年や学級によって肯定的割合に差があった。また、「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」の肯定的割合は6割程度だったので、引き続き取り組んでいく。
自ら問いを立て、学ぼうとする意識をもつことができる指導の工夫・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・単元を通して、学びが継続できるような展開を工夫する。 ・学習のねらいに迫るめあてを全体で共有して取り組ませたり、授業の学びを自分の言葉で振り返らせたりして、主体的に学習に取り組めるようにする。 	「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」や「学習した内容で、分かった点や分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」の質問は、学年によって肯定的割合に差があった。肯定的に答えている学年とそうでない学年があった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・学校では、学習に取り組む基本的な態度や習慣を身に付けるために、「よい子の学習のきまり」をもとに学校で共通理解を図りながら学習指導を進める。さらに、「家庭学習強化週間」などを通して学習内容の確実な定着を図る。また、自分の課題に向かって計画的に学習を進められるようにする。
- ・基礎・基本を定着させるために、めあてや振り返り・まとめを習慣化させる。また、朝の学習などで、既習事項の問題に取り組ませ、基礎的基本的な知識の向上に努める。
- ・対話に関する質問の肯定的割合が、学年によって差があった。今後も学級活動や各教科を通して、課題に対して自分の考えを書いたり、比べながら聞いたりすることで、問題を解決できる力の育成を図る。
- ・記述式の問題の正答率が低いので、自分の言葉で説明したり、自分の考えを書いたりする場を設定する。その際に、書き方を指導したり、友達と互いの文を推敲したり、自分の文章のよさを見つけたりできるようにするなど、指導の充実を図る。